



学校だより

はと広場

7月号

平成30年6月29日

さいたま市立北浦和小学校

TEL 048-831-2463

子どもの頃の体験は 豊かな人生の基盤

校長 益子 聡

お月見や七草がゆなどの行事を体験した小学生の割合はおよそ3割であることが、独立行政法人「国立青少年教育振興機構」の調査でわかりました。一方、節分やクリスマスなどの商品化された行事を体験した小学生は8割でした。

◆ 子どもに どんな体験をさせていますか？

アンケート調査は平成26年4月～29年5月、全国27の国立青少年教育施設を利用した小学校3年生から中学校3年生の児童生徒約34,000人を対象に実施し、小学生から次のような結果を得ました。

- ▶ 日本の昔ながらの“遊びや文化”を体験している小学生の割合は 低い → およそ3割
 - ・「かるた や たこあげをして遊んだ」 (40.1%)
 - ・「お月見の行事をした」 (32.8%)
 - ・「こどもの日に家で かしわもちを食べた」 (31.1%)
 - ・「草花遊び(花の首飾り、笹舟、草ぶえなどを作って遊ぶこと)をした」 (28.5%)
- ▶ 商品化・イベント化されている“行事や文化”を体験している小学生の割合は 高い → およそ8割
 - ・「節分の日に豆まきをしたり恵方巻きを食べたりした」 (91.6%)
 - ・「家でクリスマスをした」 (84.8%)
 - ・「年賀状(メールなども含む)を書いて出した」 (77.9%)
 - ・「お正月にお雑煮を食べた」 (76.9%)
 - ・「地域のお祭りなどに参加した(夏)」 (76.9%)
 - ・「年越しそばを食べた」 (72.6%)

この他にも〈小学生は「将棋の藤井さん、史上最年少で七段に昇段」「サッカーW杯ロシア大会、日本代表は〜」など大きなニュースやトピックは比較的好く知っていますが「大阪大学で世界初、iPS細胞で心臓治療へ」など、より専門的なニュースの認知度は低い傾向がある〉と分析しています。

国立青少年教育振興機構は〈日本の伝統文化などを次世代に継承していくため、その重要性を社会に広く発信する。ふだんの年中行事等において、子どもたちが「主体的に参画」できるような場を工夫したり世代間の交流活動などをより活発にしたりしていく。社会的な出来事をテーマに話し合いや意見交換などを行い、その話題を深める働きかけも行う〉と、子どもたちの成長にとって“体験のチカラ”がいかに大切であるかを広く社会全体に伝えています。

◆ かわいい子には 体験を

友だちとの遊び、動植物とのかかわりや自然体験、地域の中での社会体験、家庭でのお手伝いや家族行事、年齢によっては新聞を読むなどの生活体験。子どもの頃の体験によって得られる資質・能力について、次のようなことがわかっています。(国立青少年教育振興機構の調査結果)

- 子どもの頃の体験が豊富な人ほど、大人になってからのやる気や生きがい、モラルや人間関係能力などの資質・能力が高い傾向がある
- 日本の伝統的な作法や教養も、自然体験、動植物とのかかわり、友だちとの遊び、地域活動、家族行事、家事手伝いなどの子どもの頃の幅広い体験と関係している
- 体験が豊富な青少年ほど道徳観・正義感が強く、自己肯定感が高い傾向にある

北浦和小では、以前から学校教育、ふれあいプレイランド、土曜はと教室などで体験活動を積極的に取り入れています。家庭や地域の中で自然・社会・生活体験をしている子どもが多いということも、毎日の北小の子どもたちとの会話を通して強く感じています。

あと3週間ほどで子どもたちが楽しみにしている夏休みが始まります。日頃、子どもとの時間がなかなか取れないというご家庭でも、夏休みは一緒に過ごす時間が増えることでしょう。この夏、いつも以上に子どもと一緒に豊かな体験や自然とのかかわりをする中で、子どもたち一人ひとりの心に長く刻まれかけがえのない思い出になる、生きる力となる—そんな夏休みになることを願っています。